

委員会視察レポート

閉会中に実施した視察について、11月22日の本会議冒頭に各委員長から報告がありました。その概要は次のとおりです。

総務委員会

ICTを活用した働き方改革

【^{かすやまち}福岡県粕屋町・熊本県熊本市】

粕屋町は、インテリジェント型総合窓口サービスとして、来庁者に応じて必要なサービスを抽出する機能などを備えたシステムを使用し、ライフイベントに伴う手続きをワンストップで行っており、アンケートの結果、窓口利用者の満足度が向上していました。

熊本市は、マイクロソフトと連携して、ICTを活用した働き方改革に取り組んでおり、出張先や自宅など、庁舎外でも業務ができるようにするための環境整備や、AIが職員の働き方を分析してアドバイスを行う機能などの導入に向け、準備を進めていました。

【検証の結果】

粕屋町は、手続きのワンストップ化が来庁者の負担軽減に有効であると感じ、熊本市は、ICTを活用し、業務の効率化を進めている点が参考になりました。



▲ 10月16日 熊本市役所にて

健康福祉委員会

重症心身障害児者とその家族が安心して暮らせるよう支援

【広島県広島市・兵庫県明石市】

広島市は、地域資源を有効かつ効果的に活用し、重症心身障害児者とその家族の医療や障害に関する相談やピアカウンセリング等を行う「広島市重症心身障害児者相談支援センター」を設置していました。福祉医療施設への委託により、実際に医療やケアを行う事業所が連携した支援体制を確立していました。

明石市は、離婚前後において、子供の成長に関わる子供の養育費、親権、面会交流などが取り決められるよう支援する取り組みを行っていました。

【検証の結果】

広島市の相談支援は、医療と福祉が連携した、重症心身障害児者とその家族が安心できる体制となっていました。

明石市の養育費、親権の取り決めを支援する取り組みは、子供の幸せに関わる大事な取り組みであると感じました。



10月26日 明石市議会にて▶

文教・建設委員会

コミュニティ・スクールを支援する専任のコーディネーター

【奈良県奈良市・愛知県北名古屋市】

奈良市の飛鳥中学校区では、幼・小・中が一体となってコミュニティ・スクールの取り組みを進めており、学校運営協議会については、小中合同で開催してありました。また、地域や学校の負担に配慮し、無理のない持続可能な仕組みづくりに努めていました。

北名古屋市では、市のサポートとして、教育委員会が専任した2人のコーディネーターが全ての学校を回り、情報交換や支援を行っており、学校と地域が相互理解を深めていく上でも、重要な役割を果たしていました。

【検証の結果】

奈良市は、小中連携を意識し、小中合同の学校運営協議会を運営していること、北名古屋市は、専任のコーディネーター2人が地域と学校をつなぐ役割を果たしていたことが参考になりました。



10月25日 飛鳥中学校にて▶

市民生活委員会

満足度向上と周知活動による利用者の増加を目指して

【^{しらた}戸田市保養所「白田の湯」・東京都中央区保養所「伊豆高原荘」】

戸田市保養所「白田の湯」では、平成29年に、5年ぶりに1万人を超えた利用者のさらなる増加を目指し、満足度向上によるリピーターの増加を目指すほか、市内の幼稚園・小学校を通してチラシを配布するなど、新規利用者の獲得を目指して周知活動を行っていました。

東京都中央区の保養所「伊豆高原荘」では、施設の有効活用を目的に、区内在住者と一般利用者との宿泊料の差を500円と少なくし、利用者の増加を図り、設備面では、ロビーへの無料Wi-Fiの設置やクレジットカード決済への対応など、利便性の向上を図っていました。

【検証の結果】

白田の湯、伊豆高原荘の両施設の指定管理者である(株)伊豆急コミュニティーによる経営努力が感じられました。

伊豆高原荘では施設の有効活用のため、利用料の差を小さくしている点が発見でした。



▲ 10月30日 白田の湯にて